第6回　吉井勇顕彰短歌大会

10月12日、猪野々集会所で『第６回吉井勇顕彰短歌大会』を開催しました。今回は547人の方々より825首の投稿をいただきました。たくさんのご投稿ありがとうございました。

受賞作品

◆吉井勇大賞◆

運動会の騎馬戦にはげみ汗ながすこの子ら幾人村にのこるや　北川村　濱渦静子

◆吉井勇賞◆

風鈴の空洞見る度考える「存在」なのか「空白」なのか　香北中二年　田中世里香

その辻をあがりやしてと蛇の目さす「かにかく」の碑に雨降る葉月　京都府　後関　和夫

土笛をほっほ・ほっほと吹くわれは青い月夜の老いし梟　高知市　明石須美子

◆玉井清弘賞◆

背のびして大仏様はわたしより大きかったと児は奈良をいう　高知市　野村　丞子

◆楠瀬兵五郎賞◆

呼ぶ如き郭公のこゑに田の路をやをら家（うち）へと退院の吾　香美市　石川鏡次郎

◆佳　作◆

顔上げて見上げる空は頂上の皆が待ってる青き草原　鏡野中二年　鈴木　蕗由

共々に老いてゆく夫この夏も瀬のきらめきとなりて鮎釣る　須崎市　廣見　正子

韮生米は土佐のブランド渓鬼荘で「勇」も旨しと召し上がりしや　香美市　山下ゆみ枝

ウイスキーの樽の役目を終えし後ペンとなりたる百年の樫　香川県　林　信子

教へ子に肩をいだかれ恥ぢらへる写真を日毎出しては仕舞ふ　高知市　平田　雅

◆一般投稿作品◆　　広報委員会　選

縷紅草(るこうそう)人待顔に留守の家　明石　満子
どん栗を拾いて思ふ戦時中　臼井　幸子
コスモスや括(くく)り起せば風のくる　岡本　朴舟
秋彼岸亡き弟のカセット聞き　小野寺朱実
八十五才クリスマス讃美の歌げいこ　小原　景守
峡の空朝より晴れて百舌鳥(もず)の声　北村千鶴子
秋茄子の色艶が好み一夜漬　高野　和一
朝の日を返す棚田の稲架襖(はざぶすま)　千頭　野草
敬老日歌と踊の宴かな　西尾　玉喜
秋の暮ねぐらに急ぐ鳥のむれ　林田　幸子
花野道川風を背に落暉光(らっきこう)　原　美幸
粉挽き嗅野ざらしの臼ちちろ鳴く　福留とものり
畝作り見上げる先に吾亦紅(われもこう)　三谷　誠郎
蝸牛(かたつむり)これしきの身の置きどころ　森本　純喜
暮の秋父母姉(ちちははあね)の逝きし後(のち)　森本　幸美
天界へ続く小径や曼珠沙華　山崎　貴子
木犀の家毎に匂ふ散歩道　山﨑　寿美

◆かがみ野俳句会◆

母寝ね(い)ば円空仏(えんくうぶつ)めく十三夜　佐竹　洋子
老いの日々処暑の月待ち風を恋ふ　鍵山　和枝
秋日差す夫の髭剃る縁側に　佐藤　幸
木犀の香に立ち止まる遍路かな　利根　弘子
ランドセル見え隠れして大花野　古川　信子
碑(いしぶみ)の裏の寂けさ草雲雀　小松　愛子
吾亦紅こつんこつんと風のあり　中澤　美晴
朝冷や朝顔一花残りゐて　森本　倢代
手を延ばす子猫や萩の影ゆらし　山﨑　鈴子
痛み抜けて殊に美(は)しきや十三夜　吉田　芳

◆韮　句　会◆

停年の息子が主役稲を刈る　吉村　幹愛
廃校の門柱低く草の花　公文　春紀
まちまちの蜜柑の太さ無人市　岡本かほる
落人の裔(すえ)住む里や椿の実　高橋　章
明日ありと釣瓶落しの鍬置きぬ　北村　幸子
もの音こだます峡の稲架日和　甲藤　卓雄
満天の星のきらめく夜寒かな　野崎　典子
稲刈って遠嶺(とおね)際やか里日和　北村　里子
餌(は)を食む首やわらかに刈田鷺　明石　英子
駈け上がり振り向きざまの鹿の貌(かお)　竹内　ろ草

◆かほく俳句会◆

遠き日をたぐり寄せたる通草(あけび)かな　乾　真紀子
片道の恋に生く友秋桜　奥宮さとみ
色違ふ家族の箸やきのこ汁　久保　貴女
出荷梨背よりも高く積み上ぐる　久保内鏡子
コスモスの乱れ咲きたる空家かな　黒岩　幸女
身を透す朝一合の水の冷え　黒岩千英子
目の限り風の限りの秋桜　小松志津男
妻と吾の蒔きし大根濃く薄く　小松　隆之
秋天に走り幅跳び一直線　小松　完
脱穀の間近な稲架に雨無情　小松　昇
秋暑し見上げて戻る天守閣　杉山　春萌
まだ濡れてゐる朝空に小鳥来る　前田　欣一
何よりも籾摺り日和賜りぬ　前田　秀女
草の実のあまた弾ける塩の道　間崎　和代
蘂しべの落ちたる道や鵙(もず)の声　山崎かずみ
箕にひとつ山日を追ふて小豆干す　山中　晶子
退屈な案山子の肩に雀来る　山中　瑞輝
黄のカンナ農捨つことの鵙遠からず　山中　咲子
月仰ぐ便りの無きを良しとして　山中　明石
稲架解きて一山太くなりにけり　森本　之子

◆土佐山田町俳句会◆

秋草を静かに掴む映画の死　橋本　昭和
日の温みわづかに残す秋なすび　前田　小夜
毬栗(いがぐり)を踏めば飛びでる少年期　馬場　英男
仏像展出て曼陀羅のいわし雲　田村　一翠
灯点(ひとも)して秋意(しゅうい)濃(こ)くいる私小説　樫谷　雅道
碾臼(ひきうす)の穴にこおろぎ這入りたり　中沢としみ
花言葉しりて親しき秋の草　大石　邦男
片減りの靴履いてゆく刈田道　前田美智子
秋深し壁に鳥目絵(とりめえ)遍路宿　安丸　槙子
八十歳の秋の一日辞書おろす　明石　韮生

俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。（ただし、ハガキで投稿の場合、一人一枚のハガキで5句（首）以内）
▼かい書で、住所、氏名、電話番号を必ず明記してください。
▼誌面の都合により掲載されない場合があります。

【投稿先】企画課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
〒782−8501　香美市土佐山田町宝町1−2−1